

JAPIO YEAR BOOK 2026

発行に寄せて



特許技監

野仲 松男

JAPIO YEAR BOOK 2026 の発行に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

特許庁は、イノベーションの創出を支援するため、「世界最速・最高品質の特許審査」の着実な実施に取り組んでいます。発明が高度化・複雑化する中、その実現のためには、審査の効率・質の更なる向上に取り組む必要があります。そこで、進展が著しい AI 技術の活用の特許庁全体として積極的に取り組んでおり、7 月には、AI 活用の理念を示す「JPO AI ビジョン」を策定しました。本ビジョンの下、例えば特許審査においては、具体的な取組として、検索インデックスの作成・付与から、審査対象となる発明の理解、先行技術調査、審査対象案件と引用文献の対比、拒絶理由通知書の確認まで、特許審査の全てのプロセスそれぞれにおいて、AI の活用による効率化・高品質化等を進めてまいります。

また、企業等のユーザーの知的財産戦略を支援する取組も進めています。標準化と知的財産の一体的な活用を支援するため、特許庁は、7 月から、「標準戦略対応審査」の試行を開始しました。出願人の希望するタイミング（審査請求から最大 24 か月後）で審査に着手するとともに、審査官は、出願人の説明を受け、標準の内容及び標準における特許出願の位置づけ等を把握した上で、審査を行います。

さらに、ユーザーの海外展開の支援として、海外での特許権等の取得の促進に引き続き取り組みます。2006 年に世界で初めて日米間で特許審査ハイウェイ (PPH) を開始してから 20 周年を迎えましたが、新たに、1 月からタイとの間で、日本特許庁の審査のポイントを作成・提供する取組を開始しました。新興国の審査官による日本特許庁の審査結果の十分な活用を支援し、新興国における審査の更なる早期化を図るものです。今後も、PPH の更なる発展を目指して取り組んでまいります。

一般財団法人日本特許情報機構は、知的財産情報の総合サービス機関として、オンライン検索システムの開発、知的財産情報の翻訳等、デジタル化、グローバル化の流れを捉えつつ、長年にわたり知的財産情報の普及及び活用に大きな役割を果たしてこられました。また、特許庁における審査の取組や知的財産情報の庁外への提供の取組等にも貢献いただいております。今後とも、貴機構が新たな時代の要請に柔軟に対応しつつ、特許行政とも連携し、ますます御発展されることを祈念いたしまして、御挨拶の言葉とさせていただきます。